

「午後の紅茶」「生茶」など大型ペットボトルを約 16%軽量化 年間約 439 トンの樹脂使用量・年間約 1,515 トンの CO2 排出量を削減～

キリンビバレッジ株式会社（社長 堀口英樹）は「キリン 午後の紅茶」「キリン 生茶」などの一部の 2L・1.5L の大型ペットボトル商品を対象に、ペットボトルの元となるプリフォームの金型を改良することで 38.2 g から 32.2 g へと約 16%軽量化し、2020 年 12 月製造品より順次導入します。



＜左から軽量化した 2L ペットボトル・1.5L ペットボトル＞

今回新たに導入する 32.2 g のペットボトルは、既に国内最軽量を達成している「アルカリイオンの水」2L ペットボトルの技術を応用し、キリンホールディングス株式会社パッケージイノベーション研究所と共同開発しました。同ペットボトルを導入することで、年間約 439 トン^{※1}のペット樹脂使用料を削減し、年間約 1,515 トン^{※2}の CO2 排出量削減が可能となります。また 2L ペットボトルについては、必要な耐荷重強度を維持しながら、従来と同等以上に持ちやすく、使いやすく、廃棄しやすい新たなデザインのペットボトルに進化しました。

※1 製造計画に基づく当社試算 ※2 製造計画に基づく当社試算

キリングroupは、「食から医にわたる領域」で価値を創造し、世界の CSV^{※3} 先進企業になることを目指しています。2019 年 2 月には「環境」取り組みの一つとして「キリングroup プラスチックポリシー」を策定し、「日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を 2027 年までに 50%に高める」ことを目指しています。また、2020 年 2 月に「キリングroup環境ビジョン 2050」を策定し、「容器包装を持続可能に循環している社会」を目指すことを宣言しました。目標達成に向けた具体策として、2019 年 6 月より「キリン 生茶デカフェ」に、環境に配慮して再生ペット樹脂を 100%使用した“R100 ペットボトル”を採用しました。

今後もキリングroupは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンに関わる全ての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。

※3 Creating Shared Value の略。お客様や社会と共有できる価値の創造